

山口情報芸術センター [YCAM]

コロガルあそびのひゃっかてん

2022年11月3日(木・祝)～2023年1月29日(日)

山口井筒屋2階

山口市中心商店街に「コロガル公園シリーズ」が登場！ 百貨店の内部に子どもたち自身が育む学びの場がオープン！

山口情報芸術センター [YCAM] では、山口市中心市街地活性化推進室と協働して進める「アートでつなぐまちの活性化事業」の一環として「コロガル公園シリーズ」の新バージョン「コロガルあそびのひゃっかてん」を発表します。

「コロガル公園シリーズ」は子どもたちが遊びを通じて自ら考え、創造するための環境としてデザインされた遊び場です。2012年にYCAMで登場して以来、好評を博しており、国内の芸術祭や商業施設などで派生バージョンを発表してきました。

今回発表する「コロガルあそびのひゃっかてん」は小学2年生以下の子どもを対象としており、これまでと同様に、不定型の床面など、子どもたちが遊びを生み出すきっかけとなるようなしくみが空間内に多数散りばめられているほか、商業施設という立地を活かして、他者や社会とつながるコミュニケーションの場としても設計されています。

遊びながら考え、考えながら遊ぶというプロセスを繰り返すことで、思考の柔軟性と創造力が刺激される子どもたちの場が山口に生まれます。ぜひこの機会にご参加ください。



「コロガルあそびのひゃっかてん」のスケッチ

2016年に伊勢丹新宿本店で実施した
「コロガルガーデン for LIL KIDS」
(撮影：丸尾隆一)

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

[お問い合わせ]

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課

〒753-0075 山口県山口市巾着町7-7

TEL：083-901-2222 メールアドレス：press@ycam.jp ウェブサイト：www.ycam.jp

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

現代に生きる子どもたちのための遊び場環境 — コロガル公園シリーズ



「コロガルガーデン」(2016年/撮影:山中慎太郎 [Qsyum!])

YCAMは開館以来、オリジナルワークショップなどの教育プログラムを開発しており、それらを通じてコンピューターやネットワークをはじめとするメディアテクノロジーとの適切な向き合い方や、それを応用することで生まれる新たな表現の可能性に触れる機会を提供してきました。

「コロガル公園シリーズ」は、短時間で終わってしまうワークショップとは別に、長期間に渡って維持される公園のような場を通じて新しい学びの可能性を探るプロジェクトです。2012年の「コロガル公園」を皮切りに、これまでに「コロガルパビリオン」(2013年)や「コロガルガーデン」(2016年)を発表しているほか、山口を飛び出し東京と札幌でも実施しています。

本シリーズはいずれも、改変可能なメディアテクノロジーが埋め込まれた環境を、試行錯誤を繰り返しながら思考できる場として提案しており、利用者の子どもたちが遊びを通じて自律的な学びを獲得できるように設計がなされています。こうした学びのプロセスは、変化の激しい現代社会におけるコミュニティの創造/運営のトレーニングとしての側面もあり、そのためここでは利用者が自ら公園の保守管理に携わるなど、遊びだけに留まらない営みが多数生まれています。

こうした「模擬的な社会」とも言えるコンセプトと、その支持体としての構造物のデザインが高い評価を受け、コロガル公園シリーズはこれまでにグッドデザイン賞やキッズデザイン賞を受賞しました。

これまでのコロガル公園シリーズ

コロガル公園

展覧会「glitchGROUND—メディアアートセンターから提案する学び場環境」の展示物として発表。
会期: 2012年5月19日~8月12日
会場: スタジオB 入場者数: 37,170人
設計: assistant

コロガルパビリオン

YCAMを飛び出し、屋外で展開。会期末には存続運動が勃発し、2014年に再開した。
会期: 2013年7月26日~12月1日/2014年8月1日~31日
会場: 山口市中央公園 入場者数: 47,077人
設計: assistant

コロガル公園 in ネイチャー

札幌国際芸術祭の一環で、初の山口県外での開催。
会期: 2014年7月19日~9月28日
会場: 札幌市資料館裏庭 入場者数: 80,955人
設計: 五十嵐淳建築設計

コロガルガーデン for LIL KIDS

東京での初の開催は、初の未就学児童対応。
会期: 2015年4月29日~5月3日
会場: 伊勢丹新宿本店本館6階催物場
入場者数: 356人
設計: assistant

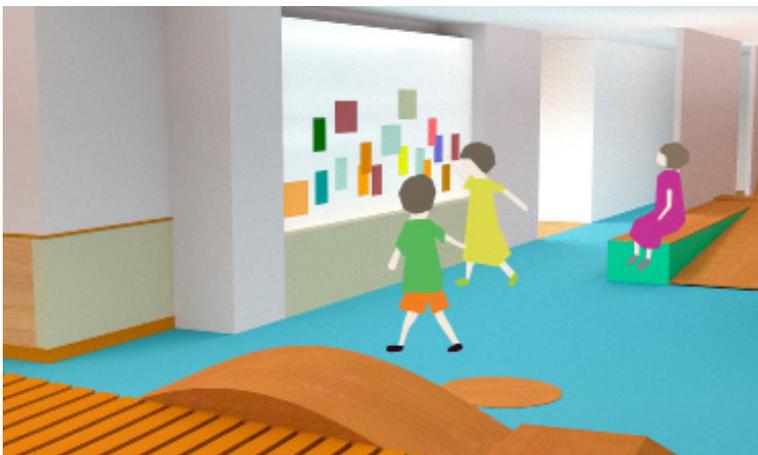
コロガルガーデン

2年ぶりのYCAMでの開催は、ホワイエとスタジオBでの同時開催。
会期: 2016年6月18日~9月4日
会場: ホワイエ、スタジオB
入場者数: 53,142人
設計: assistant

コロガル公園 commons

2012年の最初の「コロガル公園」を一部アップデートして再現。
会期: 2018年7月21日~10月28日
会場: スタジオB
入場者数: 50,127人
設計: assistant + 慶應義塾大学鳴川肇研究室

コミュニケーションツールとしての公園を通じて、まちを活性化する



「コロガルあそびのひゃっかてん」のスケッチ

「コロガルあそびのひゃっかてん」は山口市では4年ぶりとなる「コロガル公園シリーズ」の最新版で、対象は小学2年生以下の小さな子どもたちです。山口市中心市街地の中核にある商業施設、山口井筒屋の一角で、山口市中心市街地活性化推進室とYCAMが協働して進める「**アートでつなぐまちの活性化事業**」の一環として実施します。

会場空間内には、山口市を拠点に不動産と建築設計の交点を探る活動を展開する**鈴木康義**のディレクションのもと、静岡県浜松市を拠点に活動する建築デザイン事務所**+tic**（プラスチック）が設計した不定形な床面やオブジェクトを設置。この内部や周辺には、照明やスピーカー、センサーなどを会期中に開催するイベントを通じて埋め込む予定です。このアップデートに際しては、山口市道場門前商店街でVIVITA JAPAN（ヴィヴィータ・ジャパン）株式会社が運営する「まちの実験室」である「**VIVISTOP YAMAGUCHI**（ヴィヴィストップ・ヤマグチ）」と連携しながら進めていきます。

また、会場を訪れた子どもたちに遊びのアイデアを絵や文章で表現するアイデアシートを配布し、イベントなどを通じてアイデアを収集。優れたアイデアは、会場内に設置した掲示板「あそびのひゃっかてん」に掲出します。様々な人々が行き交う百貨店や商店街の特性を活かし、子どもたちのアイデアに対してさまざまな人々からフィードバックを受けることで、遊びを通じて他者や社会とつながる「コミュニケーションツール」としての公園を実現。山口市中心市街地の活性化につなげていきます。

■ アートでつなぐまちの活性化事業

山口市では「第3期山口市中心市街地活性化基本計画」を策定し、『まちを、楽しむ。』を全体のテーマに「居心地が良く歩きたくなるまち」「多様な人々の心が弾むまち」を目指し中心市街地の活性化に向けた取組を進めている。

本事業は、「交流と創造による来街機会の創出」を目的とし、YCAMが持つ知見を活用して子どもを核とした来街のきっかけづくりを行い、まちのにぎわい創出等を図ることで、子どもから大人まで楽しめる中心市街地となることを狙いとしている。

■ 鈴木康義（すずき・やすよし）

静岡県浜松市生まれ。静岡県文化芸術大学を卒業後、403architecture [dajiba] にて勤務。不動産会社、創造系不動産にて勤務した後、千葉県いすみ市にある空き家から生まれる廃材を活用する、いすみ古材研究所に携わる。

■ +tic（プラスチック）

鈴木知悠と鈴木陽一郎の2人によって2013年に設立。建築設計を中心に、ものづくり、まちづくりとプロジェクトベースに活動を行う。現在は浜松市中心市街地にて、5つの場所を実験的に管理運営している。主なプロジェクトに、自走式立体駐車場を商業スペースとして再構成するための移動建築《cube》街中の空室をテンポラリーなシェア工房とする《みんなの工房》等。

■ VIVISTOP YAMAGUCHI

（ヴィヴィストップ・ヤマグチ）

山口市道場門前商店街にある、みんなが使える「まちの実験室」。3Dプリンターやレーザーカッターなどのデジタルファブリケーションツールを使って様々なものづくりにチャレンジできる。

応用可能なみんなの遊び場へ

「コロガルあそびのひゃっかてん」の会場を構成するパーツは、小さな子ども向けに角度や高さを調整し、遊びを親子で楽しむことができるように設計されています。加えてこれらのパーツは単独でも機能するように設計されており、今後、他の地域のより狭い空きテナントなど、条件が異なる場所に移動させ、かたちを変えて展開できるようにもなっています。

あらかじめ応用や転用を想定した設計をおこなうことで、会期終了後も、遊びを通じた街との新たな関係性を創出することを視野に入れています。

開催概要

コロガルあそびのひゃっかてん

2022年11月3日(木・祝)～2023年1月29日(日)

10:00～17:00

休場日：毎週火・水曜日、年末年始(12月27日～1月4日)

山口井筒屋(山口県山口市中市町3-3)2階

入場無料

対象年齢：小学2年生以下(未就学児の入場は保護者の同伴が必要です)

主催：山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市教育委員会

協力：株式会社荒谷建設コンサルタント、VIVITA JAPAN株式会社、株式会社山口井筒屋

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]

第3期 山口市中心市街地活性化基本計画 アートでつなぐまちの活性化事業

同時開催イベント

鎖国 [Walled Garden] プロジェクト

ローレン・リー・マッカーシー+カイル・マクドナルド新作パフォーマンス アンラーニング・ランゲージ

2022年11月12日(土)～2023年1月29日(日)

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB

アメリカを拠点に活躍するアーティスト、ローレン・リー・マッカーシーとカイル・マクドナルドとYCAMによる新作パフォーマンスです。

「AI(人工知能)にはない人間の資質とはなにか?」というテーマを探求する観客体験型パフォーマンス作品です。作中にはAIが登場し、観客にさまざまな問いを投げかけ、観客はAIに対応していく過程で人間とマシンの違いについて、考えを深めていきます。